

### 3. 総会が上越タイムスの首都圏版で紹介されました。

## 総会で熱く上越応援

### 鯉橋師匠の方言小話も

上越とネットワーク  
ふるさと

上越市の出身者をつなぐ「ふるさと上越ネットワーク」(和久井博会長)は5月25日、都内のアルカディア市ヶ谷で総会と懇親会を開いた。80人が参加した。総会後のアトラクションで直江津出身の落語家、瀧川鯉橋師匠による古典落語を楽しんだ。

議事では、合わせて343人が参加した24年度の東京、名古屋、大阪サロンの報告や勉強会、運営委員会の現況も説明。物産購買のふるさと市場の利用や行政委嘱委員の受託、93人のふるさと越後大使の活動など、ふるさと応援団としての活躍ぶりも紹介された。今年度は公式ホームページの充実やほかの郷人会との連携を強めたい計画。東京サロンは、今年度から毎月第2木曜午後5時30分から新潟県人会館で開かれていく。

来賓の山岸行則上越市副市長は、2年後の北陸新幹線開業と来年の高田



アトラクションで古典落語の前に「直江津弁」の小話を披露した瀧川鯉橋師匠

開府400年へ今年から「ホップ・ステップ・ジャンプのまちづくり」視点を紹介し、ふるさと交流などに支援を呼びかけ、NPO法人頸城野郷土資料室学術研究員の瀧田寛さんが景観保全補助事業の雁木町屋再生基金に協力を求め、三セク7

総会後のアトラクションで瀧川鯉橋師匠は、古典落語の披露の前に「直江津弁」の小話も披露し大受け。「米に酒、高田城跡の桜、ハス。祇園、社による持ち株会社の社長候補になっている伊藤利彦さんもJネット会員に特典のある専用チラシを用意し宿泊、温浴施設をアピール。懇親会で上越タイムス社の栗田修行社長が6月から掲載する首都圏情報ページをPRした。

会員数で700人に近づくJネットの総会。ふるさと応援の事業も盛り込まれた



レルヒに上杉謙信」と江戸物を名調子で紹介し参加者、京都に並べる上越名者を喜ばせた。